

「読書の自由」の成立過程：

1953年ウェストチェスター会議を中心に

The Formation Process of “The Freedom to Read”:

Focusing on Westchester Conference in 1953

学籍番号：201421584

氏名：小南 理恵

Rie KOMINAMI

アメリカ図書館協会の知的自由に関する基本文書の一つである「読書の自由」声明は、1953年にアメリカ図書館協会とアメリカ出版会議の共同採択によって成立した。読む自由の持つ社会的意義を論じた「読書の自由」の成立が知的自由の発展に果たした役割についてはこれまで認識されてきた一方で、1950年代のアメリカ図書館界・出版界の組織的な協同のあらわれとして「読書の自由」を捉え、声明の成立過程を検討する研究は存在しない。本研究では、「読書の自由」成立の起点となった1953年ウェストチェスター会議に着目し、一次史料を含めた文献調査から「読書の自由」の成立過程を明らかにするとともに、図書館界・出版界が理念共有に至った経緯を実証的に明らかにした。

関連文献の検討を通じてアメリカ図書館協会とアメリカ出版会議の実態を調査する中で、1950年代初頭のアメリカ図書館界と出版界における連携の欠如を指摘した。また、一次史料からウェストチェスター会議の関係者を特定するとともに、ウェストチェスター会議開催の意図や会議における議論の展開を分析した。ウェストチェスター会議のワーキングペーパー、議事録、「読書の自由」声明の検討を通じて、図書館界と出版界の間で「読書の自由」の社会的意義に対する認識が共有されていたことが明らかになった。さらに、共産主義関係資料への圧力を懸念する図書館界とペーパーバックに対する圧力の顕在化を警戒する出版界という論点の齟齬が存在したにも関わらず「読書の自由」声明の成立が可能となった要因として、図書館界と出版界相互の事情に通じた出席者がウェストチェスター会議において指導的役割を果たしたことが明らかになった。

本研究では、「読書の自由」以外の領域における活動が図書館界と出版界の理念共有に与えた影響については十分検討することができなかった。今後、読書の自由の概念そのものを掘り下げた分析を行うことで、図書館界と出版界の協力関係における「読書の自由」の位置づけについて、さらなる検討が加えられることが期待される。

研究指導教員：吉田 右子

副研究指導教員：後藤 嘉宏